



あした

明日もしあわせ通信 (第80号) 令和5年2月号

生きているということ

孫がスカートに興味を持ち、「ばーば作って…。」を断れず。ピンクのミニスカートを作ることになりました。久しぶりにミシンを出して縫っていると、ふと、谷川俊太郎さんの『生きる』の一節を思い出しました。教科書でも取り上げられた有名な詩なので、思い出す方も多いのではないのでしょうか…。

「…前略…

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ

そして



かくされた悪を注意深くこぼむこと
…中略…

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりはほうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ」

出来上がったスカートをはいて、嬉しくてくるくる回りながら喜んでいる孫を見ると私も笑顔になり幸せを感じます。

コロナ禍や物価上昇など不安要素はありますが平和に暮らせることは幸せと思います。今年こそ争いのない平和な世の中になるように願ってやみません。子ども達が楽しい、嬉しいを感じて笑顔でいられる毎日でありますように…。(A)



適応指導教室「はばたき」～体験をすることの大切さ～

伊予市内の小・中学校で英語科の授業を支援されているALT (Assistant Language Teacher) がはばたき教室にも来てくれ、初めての英語教室を開催した。始めに、ALTから自己紹介があり、23歳で昨年ニュージーランドから来日したことなど日本語で上手に話してくれた。

次に、教室生からの「好きな音楽は?・食べ物?・スポーツは?・将来の夢は?」などの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださった。将来はニュージーランドに戻って小学校の先生になりたいと自分の夢を強く語ってくれ、緊張していた子どもたちの心が一気にほぐれた。

最後に、教室の子どもから先生に、「I'm _____. I like _____。」と英語で自己紹介のお返しをした。話せるだろうかと心配していた子どもも、一生懸命に自分を紹介できた。

教室生のほとんどが英語に苦手意識を持っている。そのうえ学校に行けてないので「英語は分からない。嫌い。」と頭から思っている。そんな子供たちがALTの授業を通して英語に触れるという貴重な体験ができた。1回であったが、子どもたちの意識が大きく動いたことに感謝したい。

伊予市適応指導教室「はばたき」への連絡・相談 TEL 089-989-5022 携帯 080-2974-4581



家族でトランプ大会

年末年始に親子四世代が集まり、我が家恒例のトランプ大会が開催されました。

孫の姿が自分と重なり、幼い頃に自分も親、兄弟、いとこ達と、年の瀬にトランプをしていたことを思い出しました。

年上のいところからトランプゲームのやり方やルールを教えてもらいながら、ペアとなり一緒にゲームに参加し、ルールを理解すると、ようやくゲーム対戦一人立ち。トランプは色やダイヤやハート等の形の違い、数字の大小等、様々な事を遊びながら自然に学ぶことが出来ます。

さらに、ゲームのやり方やルールを分かりやすく説明し、どうやったら理解できるかなど“教えること“を学ぶ場でもあります。勝ったうれしさ負けた悔しさに表情を

隠したり対戦相手の心理を読んだり、これもまたトランプの醍醐味。負けたとしても、次こそは頑張るぞと、一戦ごとに気持ちを切り替えられるのもまた良き。

一九三（いっきゅうさん）というゲームは、一枚ずつめくって、一か九か三の数字がでたらそのカードの上に早いもの順に手を重ね、1番最後に置いた人が負け。その人が手の下にあるカードをとるという単純なゲーム。

6歳の孫とやっていたものの、あまりにもヒートアップ。大人げなく手を早出しするものだから、上から孫にバッチーンと手を置かれ、手が赤く腫れたのも良い思い出となるでしょう。(I)



センター長のつぶやき

最近の読書(7) ひきこもりの真実

林 恭子 著 2021年12月発行

「ひきこもりの真実 就労より自立より大切なこと」とのタイトルに心動かされ購入。そこには、「命を守るための行為が、ひきこもるという状態」「ひきこもり状態は、ガソリンの入っていない車のようなもの」

「繭やさなぎを外から無理やり引っ張り出せば中の幼虫は死んでしまう。自分の力で抜け出すしかない」

「北風と太陽のはなし。叱咤激励したり説教をしたりするのではなく、居心地よくひきこもってられる環境を作り、温かく見守り支える」

「親や支援者が「よかれ」と思ってやることは、残念ながら良かったためしがない」

「当事者に必要なものは就労支援ではなく、もっと手前の支援」など

高校2年生で不登校になり30代までひきこもった経験のある著者だからこそ、一つ一つの言葉が胸に迫る。

伊予市でもすでに、相談にのったりご家族の支援をされたりしている方もいると思います。感謝です。「居場所」は必要です。私自身が「心の居場所」になれたらいいな。

DOIG



巡回発達相談

早寝、早起き、朝ご飯

2月に入り、少しずつ春のきざしが感じられるようになりました。さて、今年の目標は立てられましたか？ まだの方は、ぜひ、「早寝、早起き、朝ご飯」をお勧めします。「山中教授、同級生の小児脳科学者と子育てを語る」(山中伸弥・成田奈緒子 著)によると、脳を動かすためには朝食を摂ることが必須であり、そのためには食欲中枢を働かせるセロトニンという物質をたくさん分泌させることが重要だそうです。寝る時間帯も肝心で、夜8時から朝6時まで寝てしっかり朝食を摂ることがベストとなります。

「親がしてあげられるのは、『どれだけ良い習慣をつけてあげられるか』ですから」ともおっしゃっています。夜明けも早くなりました。今がスタートです。(k)



伊予市子ども総合センター

〒799-3127 伊予市尾崎3-1
伊予市総合保健福祉センター2階
(電話) 089-989-6226

